

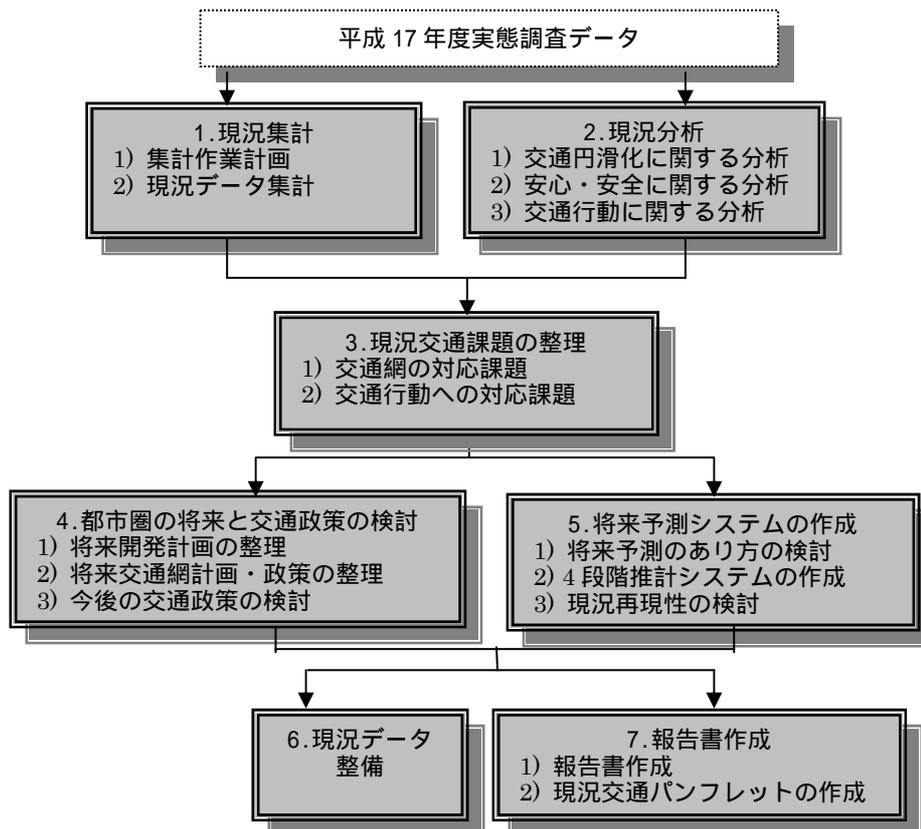
1 調査目的

近年のモータリゼーションの進展、大規模店の郊外への進出、消費行動パターンの変化等により中心部での空洞化が進み、人口流出や産業活動の減退が著しく、人口の増加率から見ても、その動きは顕著といえる。

このような社会情勢のもと、交通実態調査を実施し、都市圏交通の課題を社会構造・社会構造変化との関係も含めて分析し、将来交通体系を設定し、将来交通課題の予想をもとに都市圏の望ましい都市交通体系のあり方を策定していく。

平成18年度では、平成17年度に実施した実態調査をもとに、現況集計・分析、現況交通課題、都市圏の将来と交通政策の検討、将来交通システムの作成、パンフレットの作成等を行った。

2 調査フロー



4 調査成果

現況集計・分析

甲府都市圏の交通概況は次に示すとおりである。

人口

甲府都市圏には約 56 万人が住んでおり、人口の増加傾向が続いている。しかし、近年、増加率は伸び悩んでいる。

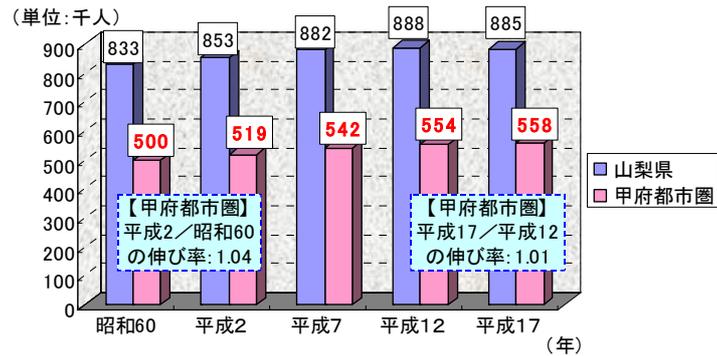


図1 甲府都市圏の人口推移

総トリップ数

都市圏内居住者によるトリップは、1,113万トリップであり、都市圏内での移動が約95%を占めている。

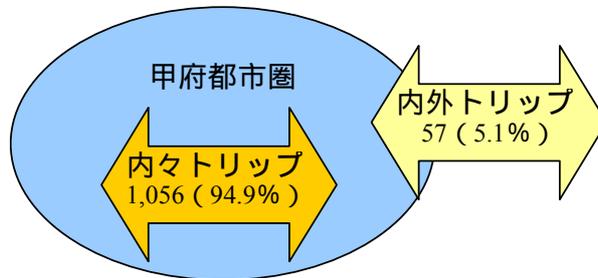


図2 甲府都市圏の総トリップ数

移動目的

移動の目的では、「帰宅」を除くと、買物やレジャー、習い事をはじめとした「私事」目的が最も多くなっている。

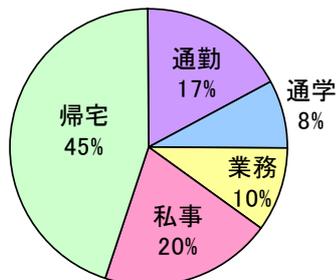


図3 甲府都市圏居住者の移動目的構成

地域間流動

甲府市や甲府市に隣接する甲斐市、昭和町等とその他市町村を結ぶ交通量が多くなっているほか、南アルプス市、笛吹市などでは、市内での移動が多くなっている。

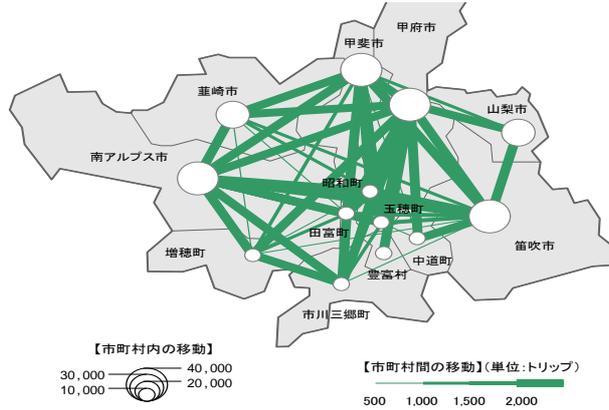


図4 地域間流動量

利用交通手段

他の都市圏と比較すると、甲府都市圏の自動車利用率は、富山高岡都市圏（富山県）やいわき都市圏（福島県）に次いで高く、一方で、鉄道やバスといった公共交通の利用率が特に低いことが特徴としてあげられる。

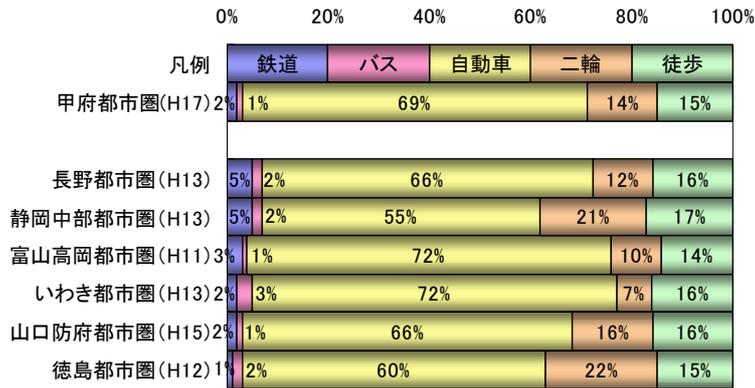


図5 他地方都市圏との代表交通手段の比較

移動目的別の利用交通手段

通勤や出張などの業務活動においては、自動車の利用率が8割を超えるなど、多くの移動において自動車が利用されている。

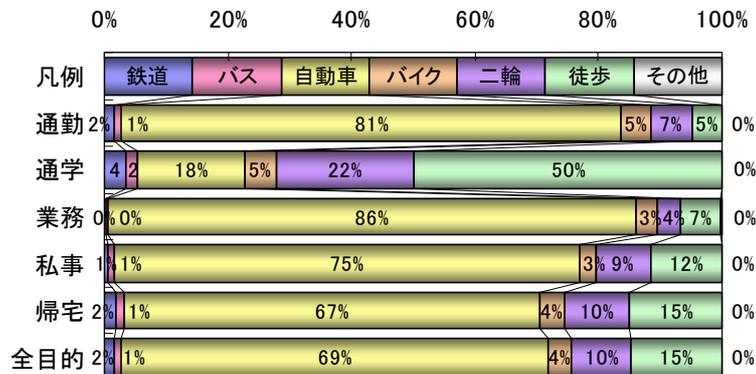


図6 移動目的別の利用交通手段

現況課題整理

(1) 自動車交通（流動特性・道路ネットワーク）に関する現況と課題

表1 自動車交通（流動特性・道路ネットワーク）に関する課題

	現況	課題
自動車利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ・69%と高い自動車利用率（図5） ・特に30～40歳代での利用が多い ・軽乗用車保有台数の増加による乗車効率の低下の懸念 ・今後の免許保有率の増加傾向 	<p>自動車依存状況への対応</p> <p>自動車交通の更なる増加への対応 （将来予測等により今後対応）</p>
（ネットワークとしての課題） 地域間流動・主要渋滞ポイント等 混雑状況	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府市中心部における道路混雑（図7） ・国道20号での慢性的な渋滞 ・道路ネットワークとして、国道20号より外縁部の商業・業務集積核を結ぶ路線が少ない（図7） ・甲府市からの放射路線における朝夕を中心とした渋滞 ・南アルプス市～甲府市、甲府市～笛吹、山梨での交通量の増加（図8） ・都市圏南部（市川三郷等）での車両数、交通量の減少 	<p>慢性的な混雑箇所での混雑緩和 （特に、甲府市中心部、国道20号、甲府市と隣接市町間）</p> <p>商業・業務集積拠点間を結ぶ道路ネットワークの形成による持続可能な交流・活力の実現</p>
道路改良状況	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府市隣接市町のうち、混雑の激しい箇所（山梨、笛吹、玉穂等）において改良率が低い ・一方、同様に混雑の見られる昭和では8割を超える ・流動の少ない市川三郷では改良率が最も低く23% 	<p>緊縮財政下における道路整備の重点化</p>
財政面	<ul style="list-style-type: none"> ・土木費の減少傾向 	
交通事故実態	<ul style="list-style-type: none"> ・都市圏では県全体よりも交通事故件数の減少幅が小さい ・故多発ポイントは渋滞ポイントと類似（図7） 	<p>超自動車依存社会における交通事故の減少</p>

<自動車交通（流動特性・道路ネットワーク）に関する課題に関する参考図>

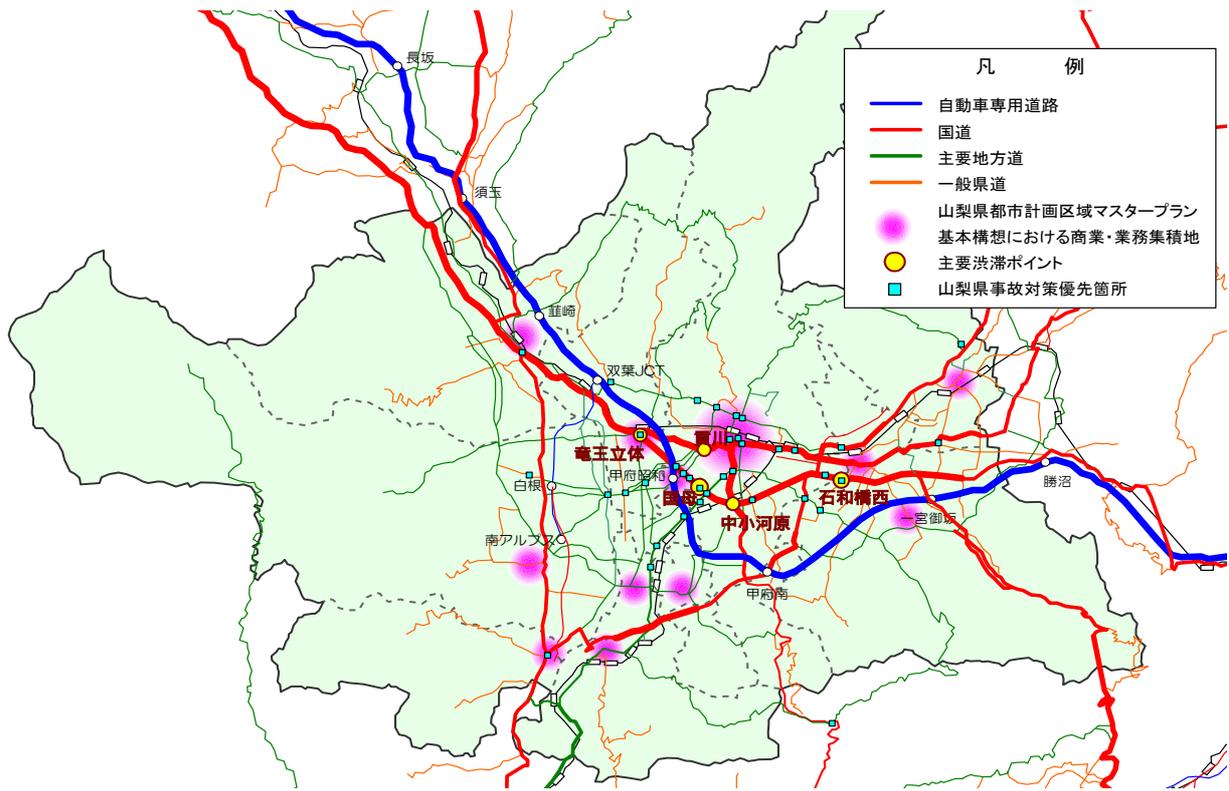


図7 主要渋滞ポイントと事故対策優先箇所

注) 事故対策優先箇所は、国土交通省甲府河川国道事務所資料による。

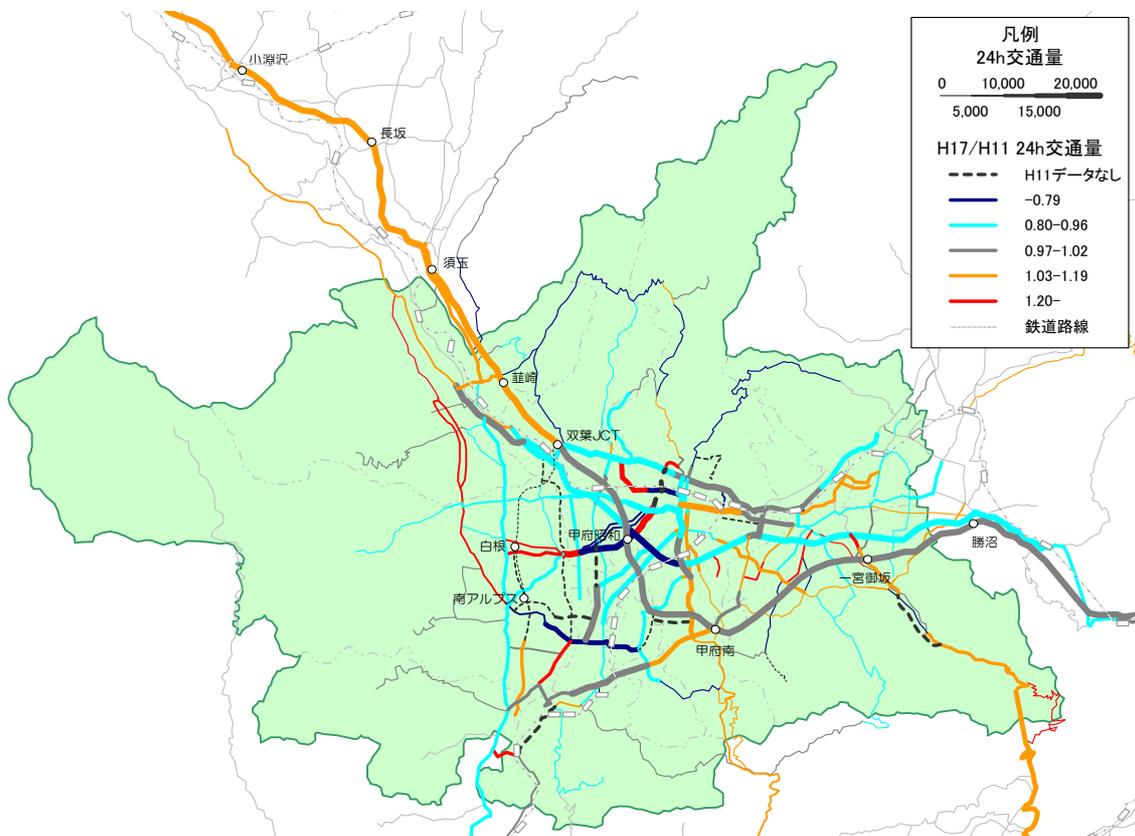


図8 甲府都市圏における交通量の伸び（平成17年／平成11年）

注) 平成17年度道路交通センサス（一般交通量調査）による。

(2) 公共交通ネットワークに関する課題

表2 公共交通ネットワークに関する課題

	現況	課題
公共交通ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道：商業・業務集積核の一部を結ぶネットワーク 中央線による県外間輸送が中心の運行本数設定 ・バス：甲府駅を中心とした放射状のネットワーク形成（図 11） 少ないバス運行本数（図 10） 	<p>県内の主要拠点間移動における鉄道利用の利便性向上</p> <p>バスネットワークの利便性向上 交通空白地区、不便地区の解消</p>
鉄道利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数が減少傾向 ・甲府駅に向かう流動が多く、特に甲斐市との間で多い ・鉄道利用者層は、免許を持たない中高生がほとんど ・端末手段では甲府駅でのバス利用が多い 	<p>代替手段を持たない中高生等への足の確保が課題</p> <p>甲府駅における鉄道・バスアクセス性の向上 駅周辺での歩行区間改善、自転車歩行環境の改善</p>
鉄道サービス水準	<ul style="list-style-type: none"> ・身延線における運行本数の少ない時間帯 ・運行本数に対する満足度が低い ・自動車利用者が鉄道を利用するための条件としては、「アクセス性の改善（図 9） 	<p>利用者ニーズに応じた運行本数の確保</p> <p>鉄道と自動車との連携（パーク&ライドの推進等）</p>
バス利用状況	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者数の減少 ・甲府市を中心とした放射状に限られた利用 ・中高生、高齢者の利用 	<p>利用者数の増加によるバス交通の維持（高齢者対応等）</p> <p>バス交通空白地区、不便地区の解消・減少 利用しやすいバス環境の整備</p>

< 公共交通ネットワークに関する課題の参考図 >

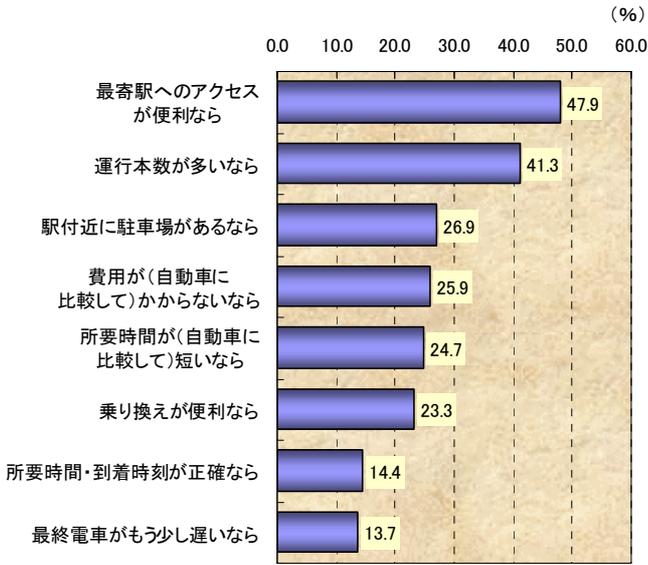


図9 自動車から鉄道利用に関するための条件

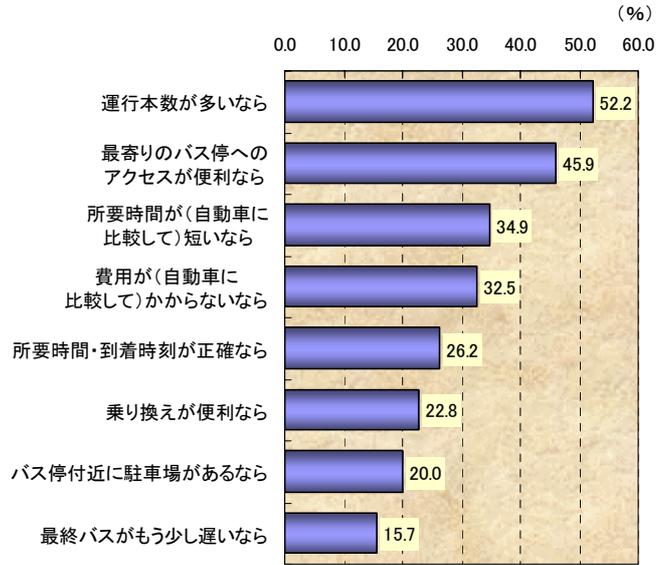


図10 自動車からバスに転換するための条件

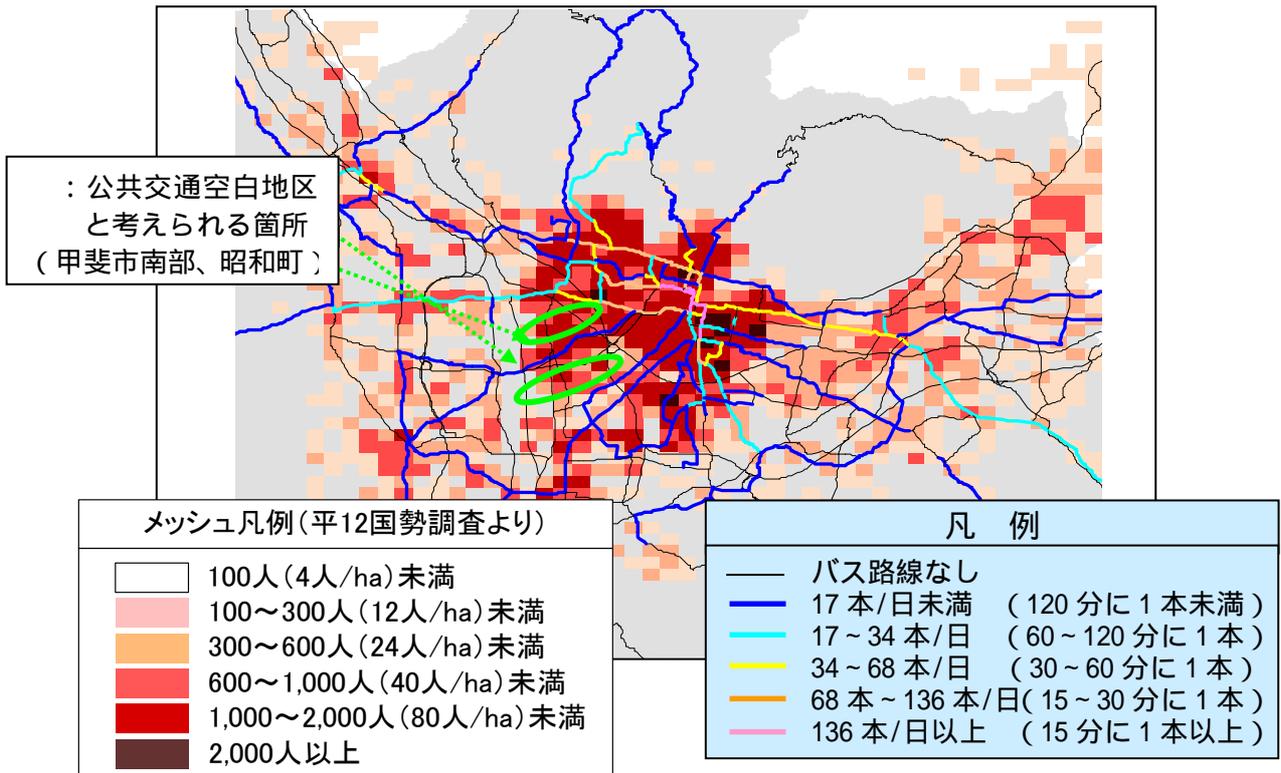


図11 甲府都市圏内のバス路線及びバス運行本数(往復計)と人口分布

注) バス路線及びバス運行本数は平成17年度バス会社資料等より作成。
メッシュ人口は、平成12年国勢調査より作成。

(3) 甲府市中心市街地に関する交通課題

表3 甲府市中心市街地に関する交通課題

	現況	課題
来訪者の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・通勤、業務目的来訪者が多い(図12) ・公共交通利用者が都市圏全体よりも若干多い(図13) ・二輪車利用が多いが、徒歩による移動は少ない(図13) ・朝の通勤目的での来訪が多く、ピーク性が高い ・来訪者の半数弱は甲府市内(郊外部) ・甲府市(郊外部)、甲府市外からは自動車利用が半数を占める 	<p>中心市街地における自動車交通への対処、交通混雑の緩和が課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中心部の混雑 <ul style="list-style-type: none"> ・一時預かり駐車場への誘導 ・路上駐車排除 ・通過交通の流入等(道路形状の問題) <p>中心市街地における活力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行空間の整備
中心市街地の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・駐車場が散在し、また個々の駐車容量が少ない ・中心部における道路混雑 	

< 甲府市中心市街地に関する交通課題の参考図 >

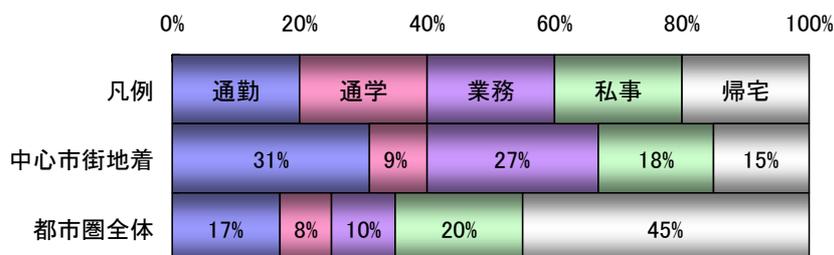


図12 中心市街地を目的地とした移動の目的構成

注) 中心市街地とは、甲府市中心市街地活性化基本計画に位置づけられた町丁目を含むゾーンとした。

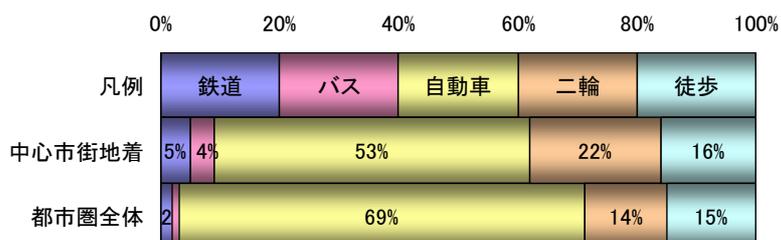


図13 中心市街地を目的地とした移動の代表交通手段構成

(4) 高齢者交通に関する課題

表4 高齢者交通に関する課題

	現況	課題
高齢化動向	<ul style="list-style-type: none"> ・甲府市隣接市町での高齢者数の増加 ・都市圏南部町村における高齢化(図14) ・甲府市での人口減少と高齢化の進展 	<p>高齢化社会における生活交通確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共交通空白地区、不便地区への対応 ・一人当たりトリップ数の少ない地域における外出支援 ・高齢者の利用促進に向けた公共交通サービスの提供
高齢者の移動の実態	<ul style="list-style-type: none"> ・一人当たりトリップ数が少なく特に、高齢化率の高い「市川三郷」、「豊富」では少ない ・私事目的移動が多く、目的施設も医療・福祉施設、商店等の割合が高い ・バスや徒歩による市町村内移動が非高齢者よりも増加(図15) ・一方、免許保有者は自動車利用率が依然として高い(図15) ・コミュニティバスの運行により、免許を持たない交通弱者の外出支援に繋がっている ・高齢者の公共交通に対する不満として「運行本数」 	

< 高齢者交通に関する課題の参考図 >

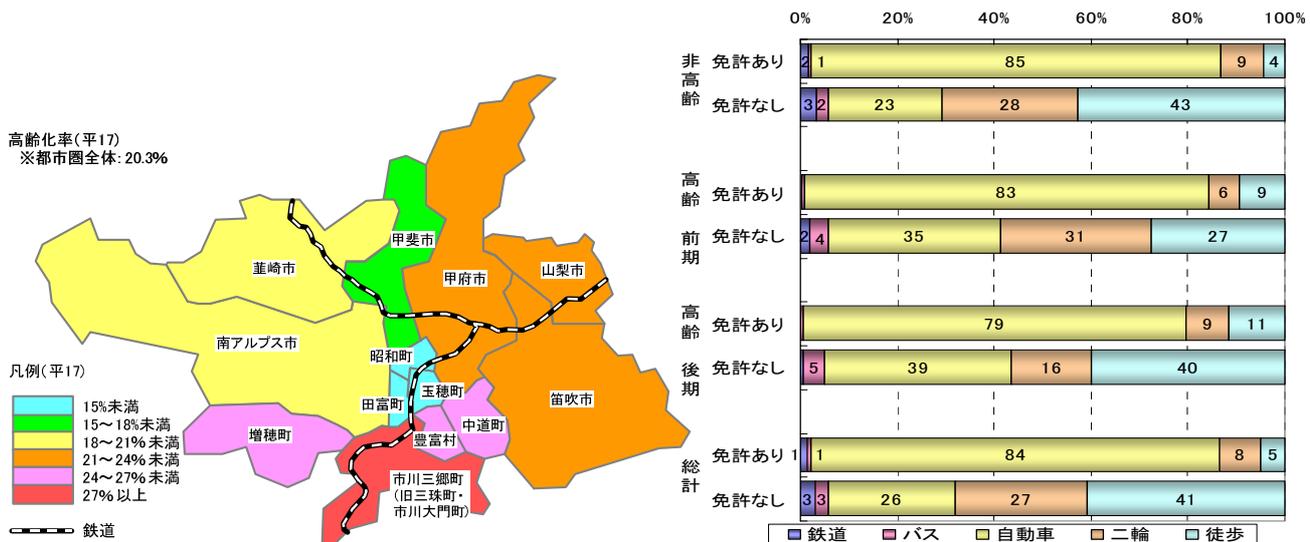


図14 甲府都市圏の高齢者分布

図15 高齢者の交通手段利用状況

注) 高齢前期: 65歳以上74歳未満、高齢後期: 75歳以上

(5) 自動車利用の適正化に関する課題

表5 自動車利用の適正化に関する課題

	現況	課題
環境面での要請	・ 運輸部門における CO2 排出量が 4 割	運輸部門による削減による CO2 排出量減少
乗車効率	・ 短距離移動での自動車利用の存在(図 16) ・ 少ない平均乗車人数(図 17) (・ 軽乗用車の増加、複数保有世帯の増加)	短距離利用削減 平均乗車人数の増加
他手段への転換	・ 高い自動車利用率 ・ 都計道改良率が高く、これ以上の道路容量拡大が望めない地域もある(昭和町等) ・ 他手段へ転換するための条件としては、「運行頻度の増加」、「バス停、駅へのアクセシビリティの向上」の要望が多い ・ 荷物の運搬を伴わない短時間自動車トリップ数の多い区間があるが、これら区間では「徒歩」、「自転車」の分担率も高い	他手段への転換による自動車 (特に、道路容量拡大が困難な地域を通過する移動等において)
自動車保有(低公害車・手放し)	・ 保有車両の低公害車の進展 ・ 低い自動車手放し意向	さらなる低公害車化の促進 自動車手放し意向が低い中での環境問題への対応

< 自動車利用の適正化に関する参考図 >

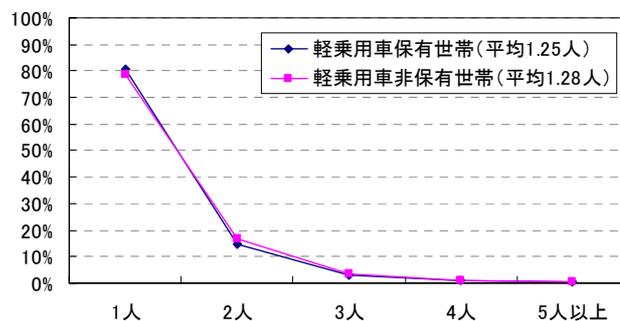
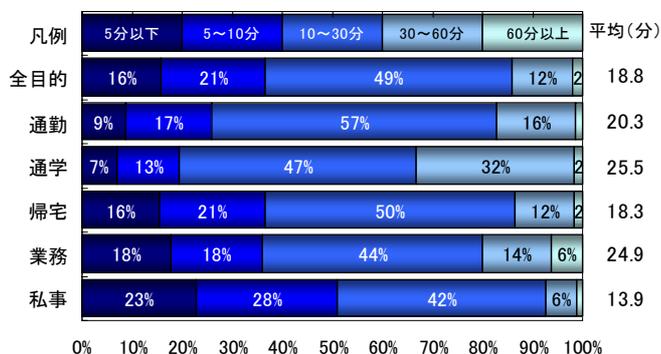


図16 自動車利用時の所要時間構成比(目的別)

図17 乗用車の保有有無別にみた自動車利用時の乗車人員

将来予測システムの作成

以下に示すような将来推計システムへの要請事項を反映して、4段階推計法による将来推計システムを作成した。

表 6 将来予測のあり方及び要請

交通政策課題	甲府都市圏の都市交通課題	都市交通課題から見た将来予測システムへの要請
交通を取り巻く社会構造の変化への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化等社会構造の変化を踏まえた交通需要、交通施策の検討 (高齢者・女性の進出、免許保有率の上昇等) ・人口減少社会における将来都市構造・土地利用のあり方検討 (コンパクトシティ等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の社会構造の変化を反映できる将来推計システムの開発 ・将来都市構造・土地利用の変化を反映でき、評価できるシステムの開発
交通の円滑化(モビリティ向上)	<ul style="list-style-type: none"> ・既存ストックの有効活用等による合理的な道路ネットワーク形成の検討 (都計道見直し、ミッシングリンク等) ・ピーク時の渋滞対策の検討 ・都市圏内の鉄道・鉄道端末、路線バス等の公共交通による移動円滑化施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゾーン間自動車交通量、道路区間交通量の予測精度の高いシステムの開発 ・ピーク時施策の定量評価システムの開発 ・公共交通施策の定量評価システムの開発
安心・安全の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や障がい者の暮らし、社会進出を支える移動支援策の検討 ・大規模災害時への対応施策の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の交通量予測システムの開発 (ゾーン間交通手段別高齢者交通量の予測) ・時間帯別滞留人口や帰宅困難者数(長トリップ数)を分析できるシステムの開発 (ゾーン間交通手段別被災人口の予測)
交通行動の改善	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車利用の転換策の検討 (モビリティマネジメント等) ・自動車の効率的利用方策の検討(相乗り、積載率向上等) 	<ul style="list-style-type: none"> ・交通行動の変容・改善を推進するTDM・モビリティマネジメント施策の定量評価システムの開発

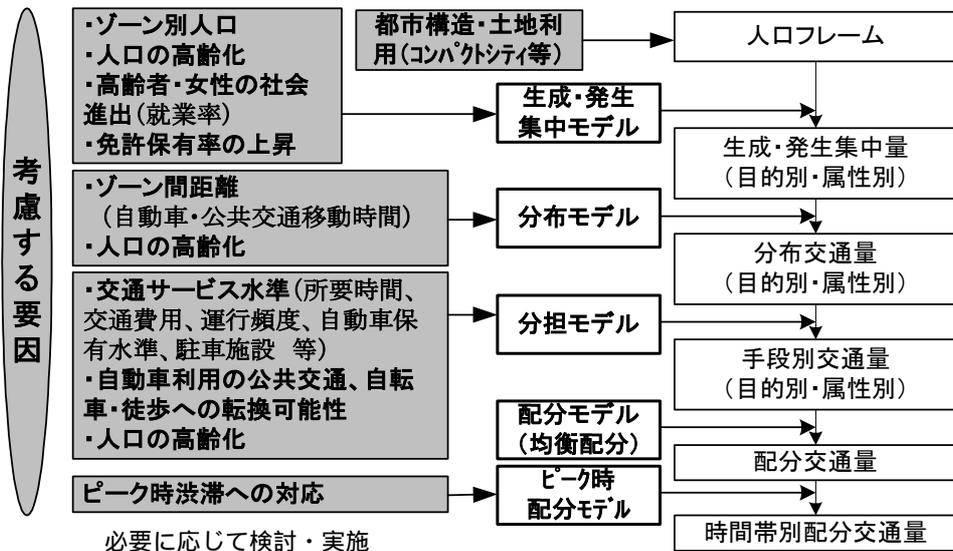


図 18 将来推計システムの基本構成